

#69 The Mermaid and the Red Candle Furigana Script

あか にんぎょ
『赤いろそくと人魚』

むかしむかし、^{きた うみ}北の海に、^{ひとり おんな}一人の女の人魚がいました。

^{きた うみ}北の海は深く、^{つめ うみ}とても冷たい海でした。

にんぎょ いわ ^{うえ すわ} 岩の上に座って、^{つき み}月を見ながら ^{かんが} 考えました。

にんげん ^{せかい}
「人間の世界は、きっとあたたかくて、やさしいところでしょう。」

にんぎょ ^{なか なか} 人魚のお腹の中に ^{あか} 赤ちゃんがいます。

にんぎょ ^{おも}
人魚は思いました。

「この子には、^{こ つめ}冷たい海で ^{うみ い}生きてほしくない。」

にんぎょ ^{あか} 人魚は、赤ちゃんを ^{にんげん} 人間の ^{せかい} 世界で ^{そだ} 育ててもらいたい ^{おも} と思いました。

^{うみ} 海の ^{ちか} 近くに、^{ちい} 小さな ^{まち} 町がありました。

^{まち}
その町に、おじいさんとおばあさんがいました。

^{ふたり}
2人は、^や ろうそく屋をしています。

おじいさんはろうそくを ^{つく} 作って、おばあさんはそれを ^{みせ} お店 ^う で売っています。

^{まち} 町の ^{じんじゃ} 神社 ^い に行く人たちは、この ^{みせ} お店 ^か で ^い ろうそくを買って行きます。

^{よる} ある夜、おばあさんは ^{じんじゃ} 神社 ^い に行きました。

すると……

かいだん した あか
階段の下に赤ちゃんがいました。

おも
おばあさんは、思いました。

あか
「まあ、赤ちゃんが・・・かわいそう・・・」

あか いえ つ かえ
おばあさんは、その赤ちゃんを家に連れて帰りました。

いえ あか からだ み
家で赤ちゃんの体を見て、びっくりしました。

あか あし さかな かたち
赤ちゃんの足は魚のような形をしていました。

おも
でも、おじいさんとおばあさんは思いました。

あか かみ
「この赤ちゃんは、神さまからのプレゼントだ。」

あか たいせつ そだ
そして、赤ちゃんを大切に育てることにしました。

おんな こ おお むすめ
女の子は大きくなると、とてもきれいな娘になりました。

じぶん あし ほか ひと ちが おも いえ そと で
でも、自分の足が他の人たちと違うので、はずかしいと思って、家の外に出
ませんでした。

むすめ しごと てつだ え か
娘は、おじいさんの仕事を手伝って、ろうそくに絵を描くようになりました。

さかな うみ くさ え あか え ぐ じょうず か
魚や海の草の絵を、赤い絵の具で上手に描きました。

まちじゅう ひと か く
そのろうそくは、とてもきれいで、すぐに町中の人が買いに来るようになりました。

え じんじゃ も うみ じ こ
「この絵のろうそくを神社に持っていくと、海で事故にあわないんだよ。」

え まちじゅう ひと にんき
その絵のろうそくは、町中の人たちに人気になりました。

むすめ おも
娘 は思いました。

わたし にんげん
「私 は人 間 じゃないけど、おじいさんとおばあさんに 大 切 にしてもらえてう
れしい。」

ひ みなみ くに ひと まち き
ある日、南 の国の人 が町 に来ました。

ひと むすめ み おも にんぎょ
その人は 娘 を見て、思いました。「人 魚 だ!」

そして、おじいさんとおばあさんに言いました。

にんぎょ わたし う かね
「この人 魚 を 私 に売ってください。お 金 をたくさんあげますよ。」

おじいさんたちは、もちろん 断 りました。

でも、その人は言いました。

にんぎょ そだ ふこう
「人 魚 を育てると不幸になりますよ。…」

おじいさんとおばあさんは、その言葉 を信 じました。

そして、その人からお 金 をもらって、娘 を売りました。

むすめ な い
娘 は泣きながら言いました。

「おじいさん、おばあさん。私 はどこにも行きたくない!ここにいたい…。」

でも、だれも 娘 の 話 を聞いてくれませんでした。

むすめ さいご あか え つく
娘 は最後に、赤 い絵のろうそくを作りました。

じぶん かな き も つく さいご
それは、自分の 悲 しい気持ちで作った、最後のろうそくでした。

むすめ ふね の い
そして、娘 は船 に乗って行ってしまいました。

その^{よる}夜・・・

だれかがおじいさんとおばあさんの^{いえ}家^きにきました。

おばあさんが^と戸をあけると、^{かみ}髪^{なが}の^{おんな}長い女がいました。

^{おんな}女^いは言いました。「ろうそくをください。」

^{おんな}女^{あか}は^え赤い^み絵^いのろうそくを見て、言いました。

「このろうそくをください。」

おばあさんは^{かね}お金^えをもらいました。

でも、よく^み見ると、それは^{かい}貝^{がら}がらでした。

おばあさんは、^{いえ}家^{そと}の外^でに出ました。

でも、もう^{おんな}女^いはいませんでした。

その^{よる}夜、^{うみ}海^{おおあらし}は大^嵐嵐でした。

^{おすめ}娘^のが^{ふね}乗った^{うみ}船^{しず}は、海に沈んでしまいました。

それから、不思議なことがありました。

^{まち}町の^{じんじゃ}神社^{あか}で^え赤い^{つか}絵^{よる}のろうそく^{おおあらし}を使^おった^お夜^おは、かならず大^嵐嵐が起きました。

^{まち}町の^{ひと}人^いたちは言^{あか}いました。「^え赤い^{こわ}絵^{のろ}のろうそくは、怖^いい。呪^いいだ・・・。」

^{まち}町の^{ひと}人^{じんじゃ}たちは^い神^い社^いに行かなくなりました。

そして、おじいさんとおばあさんは^やろうそく^や屋^やをやめました。

でも、夜^{よる}になると、火^ひがついた赤^{あか}い絵^えのろうそく^{ろうそく}が海^{うみ}から町^{まち}の神社^{じんじゃ}にゆっくり
うご^{うご}動く^まのを、町^{まち}の人^{ひと}たち^みが見^みました。

きた^{きた} うみ^{うみ} ふか^{ふか} 北^{きた}の海^{うみ}は深^{ふか}くて、とても冷^{つめ}たいです。

かな^{かな} つき^{つき} ひかり^{ひかり} しず^{しず} うみ^{うみ} て^て
そして、悲^{かな}しい月^{つき}の光^{ひかり}が、静^{しず}かに海^{うみ}を照^てらしています。

にんぎょ^{にんぎょ} かあ^{かあ} こころ^{こころ} も^も
人^{にんぎょ}魚^{ぎょ}はやさしいお母^{かあ}さんの心^{こころ}を持^もっていました。

にんげん^{にんげん} せかい^{せかい} せかい^{せかい}
でも、人^{にんげん}間の世^{せかい}界^{かい}は、やさしい世^{せかい}界^{かい}ではありませんでした。

あか^{あか} ひ^ひ いま^{いま} うみ^{うみ} うえ^{うえ} かな^{かな} かあ^{かあ} あい^{あい} ゆ^ゆ
赤^{あか}いろ^{いろ}うそ^{うそ}くの火^ひは、今^{いま}も海^{うみ}の上^{うえ}で、悲^{かな}しいお母^{かあ}さんの愛^{あい}のよう^{よう}に、揺^ゆれて
います。

ありがとうございました。

では、また！

Notice:

- Unauthorized reproduction or distribution of this material is prohibited.
- This PDF is for personal use only.
- For any inquiries or permissions, please contact us.